

◆奨励賞◆

不登校にも優しい世の中を

旭陵 中学校 三年

榮 島 蒼 太郎

自分は今まで不登校で、たくさんの苦悩を味わいました。大人の一部の人たちは不登校にあまり理解がなく、責める人も中にはいました。そんな時に助けてくれる場所がないかと思いました。不登校だと勉強が人より遅れたり、人と話すことがうまくなかったりして、あまり良い印象を持たれず、人生的に苦労します。

不登校になる原因は様々ありますが、自分の場合は父の自殺でした。大切な人の自殺は、心に大きな大きな穴をあけました。月日が経っていく中で、自分でも気づかぬうちに、学校へ通えなくなっていきました。それから約二年と半年の間、学校を休みました。

その間のことを覚えています。勉強なども手をつけられず、外出することも不安で、家から出られない日々が続きました。苦しかったです。毎日毎日、生きていく価値が見い出せませんでした。

そんな自分に寄り合い、支えてくれた人たちがいます。それでいいんだよと認めてもらえたことは再び自分が学校へ通い出すきっかけとなりました。

今、自分が学校に通えているのは、周りの友達に恵まれているからなのです。心配してくれる先生達のおかげでもあります。

自分の周りにいる人たちは、自分が不登校であったことを忘れさせてく

れるぐらい、ふつうに接してくれませんが、そこには優しさがあります。このことは本当に何にかえられないほどうれしいのです。

残念ですが、自分のような環境ではない人たちもいるのではないかと思っています。そのような人たちにとっても生きやすい世の中を実現するためにはどんなことができるのでしょうか。国の人に考えてもらうだけでなく、自分たちももっと考える必要があると思います。

辛いことを経験し、その痛みを味わった中で、周りの人たちの優しさを身に染みて感じる事ができたからこそ、自分にはもっと何かできることがあるのではないかと考えていました。

だから、「少年の主張作文」を書いて、多くの人たちに自分の状況を知ってもらおうと思いました。以前の自分と同じように、困っている人たちがたくさんいると思います。それにもかかわらず、まだまだ不登校に理解が浅い世の中ですが、この世の中には、人への優しさが必要で、大切です。

一人でも多くの人に、困っている人たちに寄りそってもらえる世の中になつてほしいと思います。優しい世の中になつてほしいと思います。心からそう思います。